



2019年9月22日発行

## こあじろの森くらぶ通信

No.18

## 第4回 こあじろの森くらぶ総会



2019年8月25日（日）、「こあじろの森くらぶ」第4回の総会が三浦市南下浦市民センターで行われました。三浦海岸駅周辺では、まだ数多くの色鮮やかな海水浴客が見受けられる。総会会場内には、オープンギャラリーの展示として、約100枚の色とりどりの美しい森クラブの集合写真が飾られていました。

13時30分開始、受付は仲沢イネ子さん。全体の司会進行は鈴木カヲルさん。資格審査は松原あかねさん。出席者17名、委任状

24名でした。議長の加藤利彦さんの手慣れた会議運営によって14時30分無事に総会は終了しました。

今後の予定で最も話題となったものは、10月20日（日）実施予定の「いつでも、どこでも、みんなの地衣類」の座学と現地実習です。地衣類の専門家をお呼びして、小網代の森を歩きます。昨年実施の「変形菌を探そう」は、座学と現地実習会は実に好評で多数の参加者がありました。

第5号議案では、新スタッフとして地元三浦市にお住まいの三本保子さんが選ばれました。よろしくお願いします。



休憩の後、第2部として会員の須田漢一さんのスライドショー「森と海辺と大地から」と題して映写がありました。総会の終了は16時でした。

記：祖父川精治



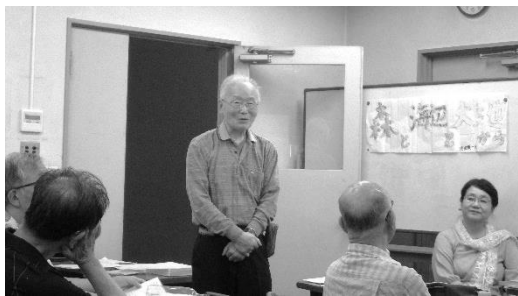
### 須田漢一さん プロフィール

1938年逗子市に生まれる。10代のころから自然に親しみ、読書、文芸を好む。リタイア後、山や森、峠を歩き随想をつづる。現在新ハイキングクラブ会員。かながわトラスティみどり財団会員。小網代緑地保全支援会員。こあじろの森くらぶ会員。水辺公園友の会会員。日産労連・エルダークラブ幹事。

著書に『随想集 山の途中で』（2016年、かまくら春秋社）

『随想集 三浦半島森と海辺と大地から』（2018年、かまくら春秋社）がある。

## 開会のご挨拶



会員のみなさま、スタッフのみなさま方のご協力ご支援によりまして、今年も無事に「第4回 こあじろの森くらぶ」の総会を迎えることができました。ほんとうにご出席ありがとうございます。

今年、最大のニュースは、小網代の森の入口に当たる「引橋」バス停に隣接する、元三浦高校跡地へ三浦市最大の商業施設「ベシヤ三浦店」がオープンしたことです。広大なその建物 2 階の三浦市民活動交流センターへ「小網代の森」のコーナーが誕生しました。三浦市では、小網代の森へお出掛けの時には、ぜひお立ち寄り

くださいとっておりました。また、無料の駐車場もできました。

活動については、特に報告できますことは以下のとおりです。

4月14日(日) 昨年に引き続き、横須賀市光の丘水辺公園の遠足です。白い春の花「ニリンソウ」を見に行きました。私は、北アルプスの上高地や相模原の城山で大群落を見ておりますので、山の花と思っていましたが温暖な横須賀市の公園で見られるとは驚きでした。ぜひ、来年予定の観察会へご参加ください。

6月2日(日)夜 「ホテルを見にいこう」を実施しましたところ、多数の参加者がありました。神奈川県では、平時夜間は、閉鎖しておりますがホテルの時期のみ開放しております。今年、2019年5月23日(木)から6月2日(日)まででした。人気がありまして、一晩で500から1000人位の人出です。ホテルも数多く、警備するスタッフの話では、一晩で1000匹位は出るというおりました。エノキのテラス両側の森から、上流域まで数多く出ておりました。この夜、小雨模様でしたが、ライトと傘等の雨具の無い人たちが目立ちました。

昨年の9月15日(土) 交流会として、潮風スポーツ公園会議室で「変形菌を探そう」を実習と講義を開催しました。多数の人たちの参加がありました。講師は「ミュージアムパーク茨城県自然博物館」の宮本卓也先生です。この春の人事異動で教員に戻られたそうです。森中にこのような生き物がいたとは、私たちは今まで幾度も歩いているのに全く知らずにいました。小網代の森で、新しい森の妖精といった自然の発見といえます。こあじろの森クラブ発行の、ハガキ版のカレンダーの表紙をご覧ください。色鮮やかな変形菌が見られます。

総会の第2部としまして、いつも随想を会報へ連載して下さっている会員の須田漢一さんが撮影された、生き物や自然の写真集を「森と海辺と大地から」と題してスライドでご紹介します。どうぞご期待下さい。

会員の皆さま、ぜひ会の行事へ参加して頂き、小網代の森くらぶの活動をご一緒に楽しまれることをお勧めします。

祖父川精治

## 閉会のご挨拶



どうもありがとうございました。2部のスライドのような生きものや景観が、本当に黙っていれば、いつまでも残ってゆくはずなので、今の小網代の森にも所どころに残っていると思いますけれども、これからも心静かに見守ってあげて、SNSに上げないように、静かに見守ってあげましょう。

そういうことで、今日はこれで、「こあじろの森くらぶ」第4回総会、皆さまのお陰で無事終了することができました。ありがとうございます。お気を付けてお帰り下さい。

高橋伸和



写真：浪本晴美

## 第1号議案 2018年度活動報告

- 2018.07.08 (日) スタッフミーティング (横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2018.07.14 (土) アカテガニ遠足下見
- 2018.08.11 (土) スタッフ会議 (横須賀市立 市民活動サポートセンター)  
アカテガニ遠足
- 2018.08.20 (月) 第12回交流会お知らせハガキ発送
- 2018.09.01 (土) 第12回交流会下見
- 2018.09.02 (日) スタッフ会議  
こあじろの森くらぶ第3回総会
- 2018.09.15 (土) 第12回交流会「変形菌を探そう！」
- 2018.09.30 (日) 小網代の森くらぶ通信 No.13 印刷・発送  
スタッフ会議 (横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2018.10.14 (日) スタッフミーティング (横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2018.10.28 (日) 第13回交流会「小網代の森は秋まっさかり！」
- 2018.11.13 (火) スタッフ会議 (横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2018.11.17 (土) 第14回交流会下見
- 2018.10~11 「小網代の変形菌」スタッフ研修のため、継続して森に入っています
- 2018.11.25 (日) こあじろの森くらぶ通信 No.14 印刷・発送  
スタッフ会議 (横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2018.12.13 (木) スタッフ研修 鷹取山、神武寺 (すす払い、ご開帳)
- 2018.12.01 (土) 第14回交流会「石器時代の三浦半島を想像して小網代の森まで歩こう」  
縁の会
- 2018.12.22 (土) 第15回交流会お知らせハガキ発送
- 2019.02.03 (日) 第15回交流会「鳥いっぱい谷と海2019」
- 2019.03.05 (火) スタッフ研修 神武寺「変形菌、地衣類、コケ類」
- 2019.03.10 (日) スタッフ会議 (横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2019.03.24 (日) 通信 No.15 印刷・発送  
スタッフ会議 (於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2019.04.14 (日) 光の丘水辺公園遠足「春の妖精ニリンソウを訪ねて」
- 2019.04.27 (土) 第16回交流会下見
- 2019.04.29 (月祝) 第16回交流会「みつけよう、春の森いろいろ」  
加藤利彦さんの写真とトークを楽しむ会「三浦半島の自然」
- 2019.05.10 (金) 第17回交流会 案内ハガキ発送
- 2019.05.26 (日) 通信 No.16 印刷・発送  
スタッフ会議 (於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2019.06.02 (日) 第17回交流会「ホテルを見に行こう！ 2019！」
- 2019.06.04 (火) 多摩川干潟遠足「河口干潟の生きもの」
- 2019.06.15 (土) 第18回交流会下見



## 第2号議案 2018年度決算

収入の部				支出の部			
科目	2018年度予算額	2018年度決算額	差異	科目	2018年度予算額	2018年度決算額	差異
前期繰越金	777,313	777,313	0	通信費	10,000	36,261	-26,261
会費収入	70,000	64,000	6,000	交通費	15,000	12,078	2,922
寄付金収入	200,000	248,972	-48,972	事務消耗費	20,000	20,572	-572
				会議費	50,000	55,162	-5,162
				広報費	60,000	33,196	26,804
				諸手当	140,000	152,000	-12,000
				次期繰越金	752,313	781,016	-28,703
	1,047,313	1,090,285	-42,972		1,047,313	1,090,285	-42,972

繰越金内訳

ゆうちょ銀行当座預金	222,916
現金	558,100
合計	781,016

上記の通り報告致します。

2019年8月25日

会計 宮本美織



上記の通り 相違ありません。

2019年8月25日

会計監査 竹内晶子



## 第3号議案 活動計画

会則「小網代の森を楽しむことを通じて、会員の交流をはかる」にそって活動する。

- 交流会 5から6回 通信発行 5から6回
- 会員に提案して小網代の森以外での活動 随時
- スタッフ研修 随時

## これからの予定

10月20日(日)「いつでも、どこでも、みんなの地衣類」

地衣類の専門家をお招きして座学—実地観察—小網代の森歩き を計画しています。定員20名  
詳しくは9月発行のこあじろの森くらぶ通信で。

12月7日(土) 小網代の新しい魅力を探して歩こう!

希望者は縁の会へ流れて一年の締めくくりの宴会場へ、今年は昼頃にしたいという声があり。

2月2日(日)「恒例 鳥いっばいの谷と海2020!」

毎冬定例になってきました。同じ場所、同じ時期に何方が顔を見せるのかが楽しみになってきています。須藤伸三さん、別府史朗さんに案内をお願いして!

3月~4月 遠足 光の丘水辺公園

妖精にもとえられる可憐な姿のニリンソウを訪ねて、植物・動物・早春の生きものをまるごと満喫。

4月29日(水・祝) 春の小網代を満喫しましょう!

3年目になります写真家加藤利彦さんの最新作のご披露も計画できます。

6月 ゲンジボタルに会いに行こう

森のホテルの数の多さは県下一級!「ほ、ほ、蛍こいと歌いながら」は森くらぶだけ!

7月 遠足 アカテガニの放仔を見に行こう

2019年は残念ながら潮岩コースは台風の影響で断念しましたが、2020年はどうでしょうか。もっと、もっと出てきて欲しいアカテガニのお母さんです!

8月 第5回こあじろの森くらぶ総会&amp;森歩き

\*スタッフ研修はいつもアンテナを張って面白そうな事を追求!

\*会員さんに呼びかけて森以外での遠足を実施!

\*ホームページがいろいろな障害を乗り越えて公開されています。PRをお願いします。

\*多くの方の参加を考えて平日の行事の開催も模索しましょう。

## 第4号議案 2019年度予算

収入の部				支出の部			
科目	2018年度決算額	2019年度予算額	差異	科目	2018年度決算額	2019年度予算額	差異
前期繰越金	777,313	781,016	-3,703	通信費	36,261	10,000	26,261
会費収入	64,000	64,000	0	交通費	12,078	15,000	-2,922
寄付金収入	248,972	200,000	48,972	事務消費費	20,572	20,000	572
				会議費	55,162	50,000	5,162
				広報費	33,196	60,000	-26,804
				諸手当	152,000	140,000	12,000
				次期繰越金	781,016	750,016	31,000
	1,090,285	1,045,016	45,269		1,090,285	1,045,016	45,269

## 第5号議案 スタッフ ※代表をおかず、スタッフ会議の多数決により運営する。

高橋伸和 浪本晴美 仲澤イネ子 橋美千代 菅野哲夫 祖父川精治 中井由実 鈴木カヲル 別府史朗 松原あかね  
木皿直規 山本述子 須藤伸三 宮本美織 倉内ちひろ 三本保子

会計監査 竹内晶子

## 第6号議案 その他

会員の辻晴一さんがスタッフ会議や交流会の記録作成(録音からのテープ起こし)を担当してくださる件が提案され、了承されました。

## 質疑応答

- Q. 第3号議案の活動計画で、通信の発行回数が5回から6回になっていますが大丈夫なのですか。  
A. 昨年度、通信が5回、ハガキでのご案内が2回、都合7回発行しています。今後も通信とハガキのお知らせとします。  
Q. こあじろの森くらぶ通信というのとは違うのですか。  
A. こあじろの森くらぶ通信です。番号を打って発行しているものは、今年5回ですが、その他に、至急のご連絡が必要な場合は号外としてハガキでお知らせをしています。  
Q. 総会の場所が、今まで南下浦市民センターでしたが、今度、新しい市民交流センターができたので、向こうも検討していただければいいなと思いました。  
A. 再来年から南下浦市民センターが建て替えて使用不能となるので、新しい場所を検討します。

## こあじろの森くらぶ会則

- 名称 本会は小網代の森くらぶという。
- 目的 本会は小網代の森をたのしむことを通じて、会員の交流をはかる。
- 会員構成
  - 1) 本会は小網代の森を愛する会員をもって組織する。
  - 2) 会員は、7月1日から翌年6月30日までの1年間の会費を納めるものとする。
- 活動内容
  - 1) 小網代の森をたのしむことを通じて、会員の交流をはかるための活動。
  - 2) 活動報告と自然を紹介する会報の発行。
- 運営
  - 1) 会員からスタッフを募り、スタッフ会議の決議に基づき、目的達成のために必要な活動を遂行する。
  - 2) スタッフ会議の決議は多数決をもって、これを行うこととする。
- 退会希望会員の会員資格  
退会希望のあった会員については原則当該期の9月会報または総会報告の掲載された号の送付をもって、会報の送付を終了、会員資格を喪失するものとする。
- 総会 本会は年1回、総会を開催する。
- 財政 本会は会費、寄付金収入等により運営する。
- その他
  - 1) 本会則の発効は2015年8月30日とする。2018年9月2日より一部改正、施行する。
  - 2) 本会則の改正は総会において、出席者の3分の2以上の賛成をもって、これを行うことができる。
  - 3) 本会則は2018年9月2日に一部改正、施行する。

# 小網代を詩う



さし絵 伸

放仔観察に行く

中井 由実

森歩きに長靴を使わなくなったから  
このマリンブーツは

ずっと しまいこんでいた

今年 何年振りかに出かける放仔見学  
久しぶりに出してみると

ずいぶん傷だらけで汚れている

誰のせい？

と不機嫌なふりをしてみせるその靴に  
今日は一緒に行こう、と声をかけて  
赤いリュックを抱え上げた



待つて

中井由実

カニたちは 確かにすぐそこまできている  
 大きな赤いオスが見える  
 なのに 卵を抱いたメスたちが  
 水際に歩いてくるのを止めているのは何？

うなる風

叩きつける波

薄昏の中に立ついくつもの影  
 交差する高い声、低い声の響き

立ちつくす

カニも 人間も

真夏の三浦半島  
 こんな夜もある



大風の日

中井由実

トビがやってきた

緩やかな下降の円を描きながら  
 全く羽ばたかずに空に浮かんでいる

大きな身体を引き下ろす重力

長い翼を持ち上げる揚力

そんな物理の力など知らなくても

不思議なバランスで風をあやつっている  
 凧のように

モビールのように

見上げる人間のことなど意に介せず  
 風を遊んでいる

## サロン小網代

随想 小網代てんでん (36)

クローンな生きかたーヒガンバナ

須田漢一

家の南側は、川に面した土手だった。

そこに真っ赤な花が群れていた。真っ直ぐに伸びた茎には、葉が一枚もない。血をたらした集団が押し寄せてくる。わあっと叫び、持っていた竹をめくらめっぽうに振り廻した。子どもの力だ。茎は折れずに、曲がった。

ヒガンバナ(曼殊沙華)と知ったその花は、次の年の秋彼岸の前に、たくさんの花をつけた。そんな繰り返しとしとしの年年も忘れた頃、そこはコンクリートの擁壁になり、ヒガンバナは消えた。

ヒガンバナは全国の畔や畑や土手、路のかたわらなどに見る。小網代では、アカテガニ広場きんぢやくだにごんしゃんごんしゃん咲いている。埼玉県中着田きんぢやくだの群落は有名だ。花は約1週間ほど咲く。この花、かつては墓場に多かった。シビトバナ、ユウレイバナの地方名がそれを語る。シタマガリと名のある有毒植物で、球根(鱗茎)にリコ

リン、その他のアルカロイド成分が含まれている。昔、その球根を何回か水洗いし、成分をのぞいて残った澱粉を救荒食にした、大切な花だった。

アゲハ(ナミアゲハ)・キアゲハ・クロアゲハなど大形のチョウや、小さな虫が蜜と花粉を求めて訪れる。しかしタネは出来ない。染色体のまとまりが、3組の3倍体だから、花粉や卵細胞が正常につくれない。その代わりに、土の中で球根(鱗片)が分割し、新しい株が生まれる。当然、他の株との交配で出来たわけではないのだから、生まれた球根は全てすべて 遺伝的にはまったく同じクローン植物である。

「クローン」というと生命倫理に反することのよう騒ぎたてるけれど、それって、本当にそんなに悪いことか？

—でも、やっぱりバラエティがあった方が種として生き残る率が高いわけでは……。

—そう。結局みんなそういうわけよ。

けれど例えば植物でも竹なんかは全部クローンよ。ヒガンバナなんかクローンで増

える植物はいっぱいいる。でも、彼らはそう簡単に絶滅なんかしない。そういう意味では優秀な遺伝子なのよ。ある程度の進化に達した段階で、これでよし、としたわけよ。『沼地のある森を抜けて』(梨木香歩)。

何ともいさましい考えに、とらわれる。人は生きものに「種しゅ」を名付けたように、多様な生きかたをそのまま認めなければならぬ。

クローンな生きかたでも、百年や千年で絶滅はしないだろう。しかし、時間スケールを、1千万年、1億年の期間で見ると、環境変化で、過去、多くの生きものが滅びたように、突然変異(自然選択)が起きにくい生殖方法だけで、ヒガンバナは生き残れるのだろうか。

子どもの頃、ヒガンバナに、何か分からない恐ろしさで立ち向かったのは、クローンなど知るはずが無かったのに、本能から突き出る衝撃のようなものを感じたのかも知れない。分からないながらの行動だったといえる。

そんなおもしろいの中に、ヒガンバナは在るあ。



## 丹沢山地のクマ注意の標識

祖父川精治

平成 28 年 11 月 24 日（木） 11 月下旬の初雪としては、実に 54 年ぶりの大雪となった。前日の 11 月 23 日（水）祝日、重厚な茅葺屋根の取り換えで新装なった、伊勢原市の日向薬師から、大山、日向山へのハイキングへ出かけました。途中で「クマ出没」「クマにご注意ください」の真新しい看板が 2 ケ所へ掲示されていた。

ヒトは文字が読めるから看板といえども、周囲をぐるりと見渡して迫力十分。恐怖感が頭から湧いてきてゾーとする。クマに対しても、出てきてはいけないよと絵で表示できないものかとおもった。近くには細かな文字で、神奈川県湘南地域県政総合センター設置のクマに対する心得と注意文が表示されていた。

神奈川県では、丹沢山地のクマの生息数は 30 から 40 頭としている。この数は数十年前から少しも変わっていない。それだけに、生息数を推定し表示するのは実に難しいといえる。

新聞報道によると、全国では年間の日撃情報はなんと平均 1 万 5 千件に上るといふ。我が国最大の野生動物のクマは、平和で豊かな山や森林の自然環境を代表する生き物である。

大きな文字で次のように書いてある。

- 音を鳴らして行動する
- 見はらしのよい場所を歩く
- 出合ったら刺激せず、その場をソット立ち去る

細かな文字で

- ◎ クマとの出会いをさけるために
- ◎ もしクマにであったら
- ◎ クマをおびきよせないために

クマは、するどいつメと大きな歯を持っていて、時速 40 キロメートルの速さで走ることができます。

突然の出会いで、引っつかれたり押し倒されると大けがをすることがあります。

クマによる人身被害を防ぐには、「クマとあわない」「クマを引き寄せない」ことが第一です。

それでも出合ってしまったら、「興奮しない、させない」ことが基本となります。

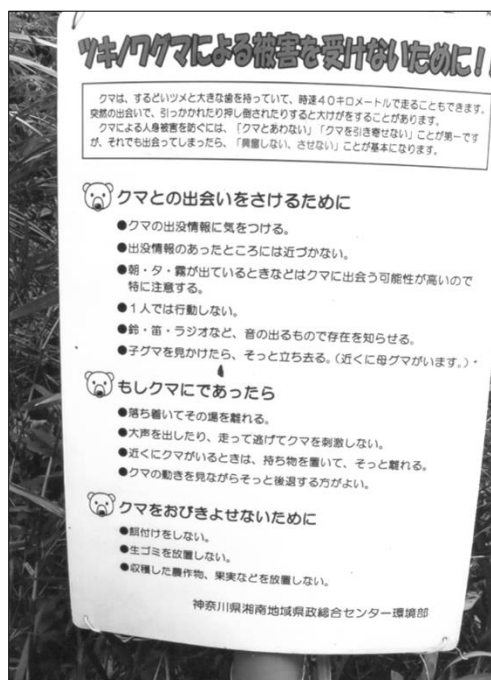
以上のとおり、ツキノワグマによる被害を受けないために！ と注意書きがあった。

クマは文字が読めないからよいけど、この看板を見ているだけでも、体がゾクゾクブルブルとしてきた。足早に山道を下ることにする。

一人では歩かない。鈴、笛、ラジオなど音のでるもので存在を知らせる。仔グマを見たら素早くそっと立ち去る、必ず近くに母グマがいる。

以上は、神奈川県湘南地域県政総合センター環境部設置の現場に設置された「クマ注意」の立て看板より、一部を引用しました。

私は、山を歩いていてクマと出会ったことはないが、クマ棚と呼ぶ樹木上へクマの登った跡を見ている。他には、北陸・富山県下の山でクマの落とし物があった。場所は登山道の真ん中、無防備で弱い姿勢をさらすのでクマといえども見晴らしの利く所を選んでるなど思った。かなりの量の落とし物で、消化の悪い木の実や種が混じっていた。



## ●●● 会員の皆さまからメッセージをいただきました ●●●



今夏の残暑はひとときわこたえます。カナカナのわきたつ夕暮れの入江を思い重ねながら、冷えたビールに身を投じる日々です。みな様、どうぞご自愛ください。 SHIO<sup>2</sup>

いつも楽しいお知らせをお送り下さって、ありがとうございます。皆様のお陰で素晴らしい森になり嬉しく、感謝して拝見しています。 K.T & T.T

通信をいただき、こあじろへ行ったような気分になりました。ありがとうございました。あと8か月で退職です。そうしたらのんびりこあじろを歩ける！ その日を楽しみにがんばります。 K.S

いつも通信をお送りいただき、ありがとうございます。遠いのでなかなか参加出来ませんが、活動を応援しています。いつか参加したいです。 K.N



お変わりございませんか。毎月最終日曜は、『ヨコスカ平和船団』の船(定期便)を操縦しに行っています。残念ながら参加できません。申しわけありませんが、よろしく願いいたします。 R.R

スタッフの皆様、いつもご苦労様です。

T.I



小網代の森インフォメーションスペースができ小網代の森交差点までできたとのことたくさんの方に親しまれ、でも昔のままの小網代であるよう会のみなさんの活動に期待しています。 K.E

遠くて行事には参加出来ませんが、動植物に関する情報が興味深いです。いつもありがとうございます。 N.M

いつもおたよりをいただき、ありがとうございます。自然を守り、生き物を守る運動が大きく実り、会を継続させておられる皆様に敬意を表します。 H.F

くらぶ通信楽しみにしています。

K.T



いつも通信楽しく読ませていただいています。

Y.F

興味のある企画がたくさんあるのに参加できず残念です。また落ち着きましたら伺います。

M.K



いろいろな情報を届けて下さり、ありがとうございます。今年はホタルを見に行けました。来年はぜひ孫にも見せたいです。 A.S

“小網代の森くらぶ通信”いつもありがとうございます。「ホタルを見にいこう！」とても楽しそうでしたね。紙芝居～絵本読みきかせ～♪蛍の合唱、近くにいたら孫を連れて行きたかったです。

K.K

“こあじろの森くらぶ通信”いつもありがとうございます。いっそうのご活躍を願っています。17号の松原さんの記述に同感です。5月25日にホタル狩りに行きましたが、ベイシアの光が奇妙でした、ここはどこ？って。

T.K

お便り いつもありがとうございます。

N.K



役員の皆さま御苦労様です。また暑い夏がやってきました。くれぐれも御自愛下さい。

Y.O

## 荒崎方面 アカテガニ遠足

### 最初で 最後の一匹 ヲエア捕りの成功！

8月17日（土） 参加23名

2年目の今年のアカテガニ遠足には、以前やっていたようにアカテガニのお母さんが放したゾエア幼生を捕らえて、ファーブルという野外観察用の双眼実体顕微鏡を皆さんにお見せしたい！

スタッフでの下見の打ち合わせ通りワイングラスはSさん、双眼実体顕微鏡はM、そこに写すのに使うスポットはKさんが用意。2週間前の大潮の晩に実踏を済ませ 準備万端の19年夏のアカテガニ遠足。ところが8月15日に日本を襲った台風がスタッフの不安を呼び、スタッフメールが行き交います。

「午前中に下見をして、当日の佃嵐から栗谷浜コースが安全か確かめてはどうですか。」

「別の日にスタッフ会議を設定するのは難しいのではないですか。」

「午前中からの行動はとつても体力的にも無理です。」

「午後から予定されているスタッフ会議を延期して、今の海岸の様子をみにいったらどうですか。」

「それが良いですね。」

「明日、午前中空いていますか？」「参加できます。」

などなど、飛び交っていましたが結局、10時に三崎口に集まった3人で下見に出発。12時までにはホームページ担当のHさんに遠足の実施可能かどうかを発信してもらうことにしたのです。

10時に集まった3人は、波にもまれながらも出港する小さな船をみながら佃嵐までの磯を歩きます。潮が引いている状態で潮が満ちてくる状態を想像しながら歩くのです。風が強く煽られながら歩きます。ハチジョウナが満開、スカシユリの実がついている。黄色いハマカンゾウが数本咲いています。地衣類の目を持つNさんは潮の吹き付ける岩に見つけた地衣類と思われる一塊にカメラを向ける。ハマエンドウの紫の花が少し。植物に目を奪われながらも今日の夕方の荒磯コースの可能性を議論！結局、無理はしないことで合意。2カ所の集合場所で遠足参加者を待つことにしました。



以上写真：浪本晴美

16時5分のバスでソレイユの丘参加の方々、16時半頃ソレイユの丘直接参加の方々には2家族と個人3人、バスの乗り遅れタクシーで農道を通って貰ってバスより少し早く参加できた祖母孫二人の三人が集まり、合計23人でアカテガニ遠足のはじまりです。



ソレイユの丘の中の水上ステージで今日の予定を聴いて、荒磯コースがなくなったのでみんなで、栗谷浜漁港へ移動です。おっとひまわりの畑は通りすぎることはできません。集合写真です！

## カニー！



浜についたら一休み、観察場所の浜掃除です。プラスチックやペットボトルを中心の45リットル袋を3つ、あっという間に拾いました。ちなみに持ち帰った筆者は家でペットボトルのラベルと蓋を別にするこの地域のやり方で分別、資源ごみと埋め立てごみの2回に分けて持って行って貰いました。海洋プラ汚染に少しでも協力した私たちでした。



例によってお菓子が回ってきていろいろな味が楽しめる軽食時間の次はKさんのアカテガニが一杯の紙芝居で、観察時のマナーのご注意。次は小網代詩人の中井由実さんの自作の朗読「人間だ！」に続いて私たちもカニの気持ちになって朗読！風の強さにもめげない声が港の夕暮れに響きます。第2弾は「放仔(ほうし)の夜」。これも皆で気持ちよさそうに朗読！新しい文化の実行かなと感じました。実はこんなことが自然の中でできたらよいと常々思っていたのです。



長靴を履いていよいよ岩場を目指します。ソレイユの丘から降りてくるカニのお産に立ち会うわけですが、なかなか姿が現れません。じっとじっとしているのですが、ちら、ほら。海へまっすぐに行くカニもあまりいません。追いかけて見ると裏切られます。こちらはじっと岩なのに。海に入っている足もザザーと波飛沫がかかります。台風の余波で波は荒いままで。長靴の中にまで潮がはいります。じっと耐えている方々にカニの気配を伝えてはじっとその姿を追いかけて。暗くなってきてTさんが海中電灯を着けても良いと指示をだします。いよいよ、カニの姿を明かりで追うのですがなかなか、海には入りません。シーと毅然としたNさんの声が聞こえます。初めて参加したハイティーン的女性2人にはちょっと厳しい時間だったかも知れません。でも、生き物の気配は十分感じて貰ったことと思います。

配は十分感じて貰ったことと思います。

もう1時間たって今日は1匹も放仔の観察は駄目かしらと諦めて戻ろうと体を港の方に傾けかけた時、みんなの真ん中の凹みにお母さんが一匹、ゾエアを抱えて海に入ろうとしているのを見つけ、みんなで囲んで見る事ができました。みんなの目で追いかけて波が寄せて返そうとする瞬間、グラスをあてるとその中にもゾエアが入り、念願のゾエア捕りもできました。





みんなで驚きのため息がでた瞬間でもありました。早速、動き出した幼生を見て貰いました。



採集したゾエア

陸に上がり、帰り支度をしている間にスポットでフェールに幼生を入れて皆さんに交代で見せて頂くことができました。新しい命の生まれる瞬間に立ち会えたことは嬉しいことでした。

まとめの会でNさんから一言感想を求められて皆さん、最後の感想を言っていました。筆者は自慢げに「ゾエア捕り、30年！思いが叶うことが嬉しい」と叫んでいました。

帰りのバスの案内をして、今日の遠足は無事終了！

来年は台風の影響を避けて、7月にやりましょう！

T.Ishizuka さんのあんな暗いところで写したカニの写真をHPで拝見させて頂きました。肉眼では見えにくい岩場のカニたちをしっかりと捉えている写真の鮮明さに驚きました。ご協力がありがたいと思いました。

記 宮本美織 写真 T.Ishizuka

### ●●● ご参加の皆さまからメッセージをいただきました ●●●



スタッフのKです。今日はちょっと波が高くて、たくさんのカニのお産は見られなかったと思うのですが、これにこりずにまた来ていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

今日は初めての体験なので、初めてこういうカニの状態を見ました。こういう引っ張ってくれる人がいないと、なかなか自分ではいけないので、また、これからもよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。

今日はありがとうございました。この真っ暗な中、こんなに海に何時間もいるということも久々の体験だったので、すごく感動しましたし、また、母親の強さが、お腹をバタバタさせて、あれも見れてよかったです。ありがとうございました。

今日はありがとうございました。生き残るといふことは大変なことなんだということ、改めて、今日、経験させていただきました。私たちもしっかりと生きなきゃいけないんだなということ、感じさせていただきました。ありがとうございました。



去年参加して2回目なんですけど、前はなかった顕微鏡でのゾエアの観察ができたので、とてもよかったです。ありがとうございました。

今日はありがとうございました。アカテガニは、この風で見れないと思ったけど、見れて嬉しかったです。



今日はありがとうございました。アカテガニを見れるなんて、すごい貴重な経験だと思いました。

皆さん、今日はアカテガニが見られてよかったです。それから、あまり、すごく汚かったので、浜の掃除ができてよかったですと思います。



今日はありがとうございました。アカテガニの赤ちゃんが、いっぱい見れてよかったです。ありがとうございました。

あまり見れないカニが見れてよかったです。ありがとうございました。



本日はありがとうございました。あのちっちゃい卵の中に、命が詰まっていると考えると、命のはかなさと尊さを感じました。今日はありがとうございました。

毎年の営みなんですね。初めて知りました。感動でした。ありがとうございました。

小網代のこういう会に参加するのは3回目なんですけど、どの会もとても感動的でした。今日は特に、最後に産卵を見ることができて、とてもよかったです。ありがとうございました。

今日は2回目なんですけども、暗くなってきたら、岩の下に真っ赤なカニがいっぱいいて、人間だ、人間だ！と言っているような気がしました。ありがとうございました。



昨年に続いて2度目なんですけど、あの生ゾエアは感動でしたね。帰ったら家族に自慢します。

やっぱり、アカテガニにとって人間って怖いものなんだなと、改めて思いました。



とにかく、皆さん、安全に無事に見られてよかったですと思います。数は少なくてちょっと残念でしたけど、またこういう会をしたいと思います。

貴重な体験をありがとうございました。感動的な場面に遭遇できて嬉しかったです。ありがとうございました。

今日は台風の後で大丈夫かと思ったんですが、カニさんが頑張って、放仔を見られてよかったです。皆さん、スタッフの方、ありがとうございました。



今日は、風や波の強さで、配置が難しかったのと、やっぱり地形の問題もあると思うんですね。それで、どっちの方向からどういふふうに出てくるか、慣れない場所だったので、ちょっと大変だったんですけども、結果的に見ることができたのでよかったです。お疲れさまでした。今日は、風が強くて、波が高かったことが影響したと思うんですね。それでも最後に見れたのでよかったです。もうひとつ、これはこちらの話なんですけど、やっぱり地形が複雑なんですね。岩が段になったりして、海の中にずうっときれいに並んで、カニがこっちから来て、だからこっちから見ますというふうに、美しく配置できないんですよ。その間をちょっと、島になっているところから周りを見るとか、その場所、場所で配置ができていたので、最後は何とかできたという、そういう結果だったと思います。いい経験になりました。



今日は、台風がグズグズ、グズグズ、いつまでもグズグズしていて、まるで私みたいだなと思うと、余計に腹が立ったりして、本当にできるかできないか心配だったんですけども、皆さんとここに来ることができて、嬉しいです。

皆さんよく集まっていたいて、ありがとうございました。辛抱強く待ったことで、やっと見られたという、そういうところが自然の面白いところだと思うんです。やっぱり価値があってよいところだなと思うところ、辛抱に対して答えがちゃんと出てくる、そういうところがよかったですと思います。それは皆さんの心掛けのよさだと思います。ありがとうございました。私としては、ゾエア取り30年、やっと一発で、1回で済むという、何度も試みない。今回、下見も含めて2回やって2回とも成功でした。ありがとうございました。(拍手)

また、来年も会いに来ましょう。周りでどこかいいところがあったら、是非教えて下さい。



## 三浦半島の植物

### リンドウとエノコログサ 2011.10.16 (竜胆と狗尾草)



画：野内眞理子

## こあじろの森くらぶ NEWS

### スタッフの活動

- 2019.07.28(日) 小網代の森くらぶ通信 No.17 印刷・発送  
スタッフ会議(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2019.08.01(木) アカテガニ遠足下見
- 2018.08.17(土) アカテガニ遠足、コース安全確認、スタッフ会議(潮風スポーツ公園)  
アカテガニ遠足
- 2019.08.25(日) スタッフ会議  
第4回こあじろの森くらぶ総会(南下浦市民センター 研修室)  
議事終了後、会員の須田漢一さんによるスライドショー「森と海辺と大地から」

神奈川県から小網代の森、一時立ち入り禁止のお知らせが発表されています。

令和元年 9 月 9 日に発生した台風の影響により、小網代の森において倒木等の被害が確認されておりますので、小網代の森を一時立ち入り禁止にします。安全が確認され次第、再開します。(神奈川県 HP より)

## ●●● ご寄付ありがとうございます ●●●

石川登美子 蛭名喜代作 大高義彦 大塚敏 奥津信子 柿島京子 加瀬アンナ 倉内大輝  
 倉内ちひろ 塩入一弥 嶋津誠 鈴木カヲル 鈴木慶子 鈴木久夫 須田漢一 祖父川精治  
 高橋伸和 土屋圭子 仲澤イネ子 浪本晴美 西川次代 野内博 橋美千代 藤崎英輔 藤野秀代  
 松原あかね 三本保子 宮下孝一 盛野成信・雅子 山本述子 (50音順 敬称略)

ありがとうございます、大切にに使わせていただきます。

## ●●● 第18回交流会のお知らせ ●●●

### 「いつでも、どこでも、みんなの地衣類！」

昨年春の交流会「地衣類って何だ？」で、地衣類がどんなものかを知り、結構いろいろな種類の地衣類が目につくようになりました。虫や花と違って、いつでも観察できるのに、その存在すら気にとめていなかった地衣類。もっとわかるようになったら、人生何倍も楽しめそう！専門家の先生から学べる、またとないチャンスです！

開催日 2019年10月20日(日) \*雨天決行

申し込み メールまたは電話でお申込みください(申込多数の場合は先着順になります)  
 info@mori-club.com(高橋)

☎046-889-0067(仲澤)

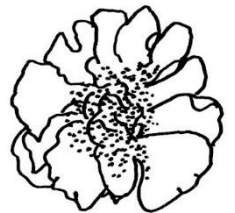
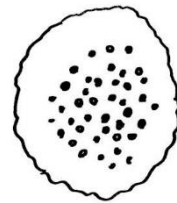
お持ち合わせ 10:00 三崎口駅前

講師 山本好和先生(地衣類ネットワーク代表)

行程 午前 スポーツ公園会議室にて座学、昼食  
 午後 「小網代」バス停から白髭神社にかけて地衣類観察  
 15:30頃 白髭神社にて解散

持ち物 ルーペ、昼食、飲み物、そのほか必要に応じ雨具、帽子など

対象 「こあじろの森くらぶ」会員とご家族、ご友人



\*定員20名。参加ご希望の方は事前に森くらぶまでご連絡ください。

\*保険はありませんので、ご参加は自己責任でお願いします。

\*午後の行程は小網代の森の外ですので、通行禁止が解除されない状態でも実施いたします

山本好和先生プロフィール: 地衣類ネットワーク(<http://jlichen.com/>) 主宰。

大阪市立自然史博物館外来研究員、秋田県立大学名誉教授。日本地衣学会元会長。

日本全国各地で地衣類観察会を開催。「木毛」ウォッチングのための手引きシリーズを発行。

\* 「木毛」ウォッチングのための手引きシリーズ

上級編、中級編(東北、近畿、その他各地)、初級編があります。今回の交流会では希望者に中級編(鎌倉・三浦半島の地衣類 2017年版)を頒布可(1,000円)。

\* 以前手引きを購入させていただいたことをきっかけに地衣類ネットワークのニュースを配信していただくようになり、普段は大阪にお住まいの山本先生が関東にいらっしゃる機会があるとわかりました。無謀にも交流会での講師をお願いしましたら、快く引き受けてくださいました。(浪本)

## こあじろの森くらぶ通信 No.18

2019年9月22日発行

小網代の森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地: 〒238-0101 神奈川県三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先: info@mori-club.com (高橋)

☎046-889-0067 (仲澤)

URL : <http://www.mori-club.com>